

**プログラムNo. : 麻酔-①****科 名 : 麻酔科 作成責任者 : 室 大輔****プログラム名 : 日本麻酔科学会麻酔科認定医取得コース**

|                    |   |
|--------------------|---|
| 研修期間               | 3年間（1年間、2年間も可）  |
| プログラムの目標           | 全身麻酔、硬膜外麻酔、脊椎麻酔など麻酔科医にとって必要な技能・知識・態度と、集中治療の基礎を学ぶ。   |
| プログラムの特徴           | 一般的麻酔科医に必要な知識が取得でき、将来の麻酔科としての subspecialty 取得の足がかりをつけられる。   |
| 臨床研修到達目標           | 3年目：当センターで最低6ヶ月研修することにより、一般的な麻酔管理（全身麻酔、硬膜外麻酔、脊椎麻酔）を習得するとともに、新宿病院において心臓麻酔（希望があれば八王子医療センターにて臓器移植麻酔）を担当し、麻酔科医としての基礎を確立する。<br>4年目：当センター内で麻酔経験数を増やしつつ、集中治療に関する基礎的研修を開始する。麻酔科の subspecialty を構築するために必要な研修（経食道心エコーのための循環器内科・消化器内科研修やI・V・Rやエコー技術習得のための放射線科研修、外科的手技の基礎となる外科系診療科研修など）を当センター内で経験し、幅広い知識と技術を獲得する。この間に麻酔科標榜医を申請する。<br>5年目：当センター麻酔科において、チーフレジデントとして初期研修医教育の中心的な役割を担い、教育担当となることで更なる自己研鑽を行っていく。麻酔科標榜医・麻酔科認定医取得。 |
| 取得できる公的資格（認定医・専門医） | 麻酔科標榜医、日本麻酔学会麻酔科認定医（初期研修終了後3年目）   |
| 他科研修の可能性           | 他科研修 <b>可能</b> ・不可能<br><可能な科・及び期間><br>外科系または内科系すべて（当センター内）<br><備考><br>5年目までに標榜医・認定医を取得するためには、後期研修中の上記以上の期間の他科研修は難しいが、後期研修終了後に、1年間の他施設を含めた他科研修が可能です。<br>（時期に関しては要相談）   |
| 学位（希望者）の取得時期       | 9年目以降10年目を目安に学位取得をめざす。（東京医科大学麻酔科に入局者のみ）<br>3～5年目で学位取得を目指す場合は、大学院（新宿：麻酔科学講座）入学を勧めます。   |
| 留学の可能性             | 留学 <b>可能</b><br><備考><br>関連大学医局：東京医科大学病院（新宿）麻酔科  |
| 主な症例と症例数           | 麻酔管理症例 1,350例／年 集中治療症例 350例／年   |

|                         |   |
|-------------------------|---|
| 後期研修医の医師一人あたりの受け持ち入院患者数 | 約 1~2 名 ( 麻酔管理の場合 )<br>約 2 名 ( ICU の場合 )  |
| 当直体制                    | 週 1 回の平日当直 月 1.5 回の祝祭日  |
| 外来研修                    | 重症患者がきた場合、救急医療部兼任医師とともに初療に参加する。<br>(集中治療室入室後は、集中治療部スタッフとして関与)   |
| 後期研修修了後の進路              | そのまま、東京医科大学茨城医療センター麻酔科スタッフ<br>(勤務：茨城医療センター、所属：東京医科大学麻酔科学講座)<br>その他いきたい施設があればどこにでも推薦状を書きます。  |
| H22 年度募集人数              | 若干名   |
| 指導医のコメント                | <p>指導医名：柳田 国夫<br/> 役職：麻酔科 科長<br/> 出身大学：東京医科大学</p> <p>麻酔科管理症例は年間 1,200 例に及びます。当院は呼吸器疾患の手術件数が多く分離肺換気など特殊な麻酔管理を身に着けることができます。小児麻酔や心臓麻酔などの特殊な麻酔症例は、他院にて麻酔管理を経験することができます。(選択性)</p> <p>麻酔科医は全国的に非常に不足しており、現状では麻酔科医の需要は大いにあります。</p> <p>一般的麻酔管理取得後に、将来を見据えて麻酔科のなかの subspecialty を選択するための機会(心臓麻酔、小児麻酔、集中治療、ペインクリニック)を得ることができます。</p> <p>また後期研修終了後も続けて研修を希望する場合は、再度自分が勉強したい科に1年間研修にでることができ2年間の初期研修のときとは違い目的を持った他科研修ができます。</p> |
| その他特記事項                 | <p>当センターの方針で麻酔科後期研修医は、助教待遇(賞与あり)です。研修中は週一日の研究日あり。</p> <p>(東京医大関連施設にて、麻酔科学会指導医の元で麻酔業務に従事)希望により夜間の当直バイトも可能ですが、行なわずとも十分な収入があります。(具体的には、問い合わせ下さい)</p> <p>BLS や ACLS のプロバイダーを取得できます。</p> <p>ICLS のプロバイダー・インストラクターを取得できます。</p> <p>JPTC や JATEC のプロバイダーを取得できます。</p> <p>DAM、緩和医療などの研修会にも積極的に参加しています。</p> <p>ICD、救急専門医などの資格取得も可能です。</p>  |